

ヲ多 9
1.576



ヲ知
1376



香道秘傳書

香乃秘傳書

たさ紹の香具のまは其人較の言
一箇目より香の較持くおれ
縁としく香合々たる様なり一香
人凡香種の付合なりおおし
井したるれらく香解と香ささ又うこ
とねとまうく時ハ秘がめあしたる

りよと方一柱二柱宛為心故と云ふ
なり

一よと書と二柱三柱も有りてハ冊玉
沈みたるはたうれまほ産神と云ふ
こめ夢ひくよたうれとやうよ可を
是へ怪人ひひ持事一也

一書とたうり今ままうめてたさ可
然と但産神と云うり誰と云たうれ

くうーくう産人書部よ火人産中一
一且たうれとと礼と市一續り以中附
ハ片上字て一と續り無く扱者自れ
お一末又と一と一と一と一と一と一と
度宛何色一と一と一と一と一と一と
一五と一と一と一と一と一と一と

一書と中附をうた二力よ似お祈一
を是へ怪人子細と云ふ年の人の書れこ

とかが行くを總もさうやうに
き用ニトウなりと久あやまていたよ
うに又やまをうと解してうんのを
おやまのうかめごとくしてぶきうし
よんこしとまう一彦中の老人の上
らうの書とくんど名あごも能くま
尋辨をよとむあをふ久あうなり
とやまのうの解り也

一書やまよ書解とあしこしあけてま
はらうしとく人もあはらうしとまうし
又書もさうの上とまうしとあはら
はらんやとあはらうしとあはら
んとさう人うらあしとあはら
ましと十彦とさうしとあはら
一書解とあはらうしとあはら
てう解りともあはらうしとあはら
上

うぶらうとらるるあまふも

一我だく書と人のえんどはとてひげ

ゆきほふうそめもきりよんそあひ書
はくぐつ物とてん名とびたりよ一皮
二皮とられんひあひりして一平也

一書あうん時わが治の人よ一礼一を。意
よ中へ礼義を用し

一書のまよふれらまひあひのり焼え

万あぬとあなうたらと物たごとあ扱あう
あしとと又うけかうあどもま用し

一茶の湯まの時も茶さうく書と一茶
とあん日いあひあひあひあひあひ
アしたとくくくくくくくくくくく
も茶の湯まよそしあひあひあひ
書とあとあんとあああああああ
あああああああああああああ

一書と申す付うられ此書と申すもりまき
あふ。ふ細と書と申す付ていねに
あやうらんの人書と申すれら書
いふよあらしと申す

一書と申す付書人西書と申すも
書や人種人外書よらつて書中へ入
て一書と申す付そのあも書人よて書
中へ入る

一書と申す付うられ此書と申すもりまき
あふ。ふ細と書と申す付ていねに
あやうらんの人書と申すれら書
いふよあらしと申す

一書と申す付うられ此書と申すもりまき
あふ。ふ細と書と申す付ていねに
あやうらんの人書と申すれら書
いふよあらしと申す

又六人の母

「三人の書こがれけんとして火よらぐやく
くありあやましく何所もこれ付
うし小刀そこまけねして玉こ
「三人の玉をよまひ書けしとゆひと
まんのまらばとまら書くしとゆひ
しり下ましてうらりよ玉を付も同
おにト又ゆひして集りよせしむるに

ふ若く

「三人の寸法ハなぶ可からしとせり
「一分家めんよとる
「三書^二毎^一は物^二を^一せん^二の^一よ
まらしたさいし^一由^二を^一あ^二の^一う^二ま^一
よとまらし^一まら^二の^一体^二を^一
「三う^二せん^一書^二ま^一の^二物^一か^二た^一ま^二物^一
き^二ひ^一し^二時^一の^二せん^一と^二く^一て^二た^一ん^二ト

物と名書や大時のさうんまてのうらうらめ
もたてのうらなと又書のお中だまた
くさるるうらなとさうんままたく
自然くる也

一書日歸のや大時おづつひありまなは
又人のおさうりておさうらるる也
さてとびくおとちもさう人のさんは
くさるるうらなとさうんままたく

ゆたかり也

一書とくよおらう大時たさうんま
一書中徳人とおらうすうん
一書とあらう大時おらのまの書
むよひのまをまのたさうんま
さうりうんの人のおさうんまの書
う。賀り上さうんま 東山教済也
お新まな立し三付るさうんま

炉焚くーめふ掛をきりやせのう
 出さう方八定垣とたくらつく心つ
 うひちく口供ん

二 書炉よ火おそてからるをく火はくこ
 とり書炉ありくし持くこまをりさ
 きておそれお抱よあて入く書炉
 とさな程意としやしくおしおん

一の御巻つこまー所んあて書具

坊ある鴨の書炉よそて二書具な
 きあてしゆもるおありそ鴨の書
 炉よりまうそておくしておし
 りんておし也
 一 魚よとり書炉のたのまて魚と
 持くちのまてうらるとさくた
 変つおる又お中へそて居あがしけ
 五添の魚あくしーまひそてあて

あゆむに時をうらむとていかに書か
けしむる也

天仁の書ありしは書か物とては武蔵の
大めの志しむるに中々もそれと書か
しと付物トと泉さう出くもいふ
ふけよをやめしむるにさうしむる
あり

一書仁の時多ありしは書かるるも書か
るる

急の度よ書りしとてよ書かよと
りしとて書か平におさし
一書都書人には書か時いたのよと
右のよとてうらの書よあつる程り
しとていりあも書かるるしとて別
あつる右のよとて書かの上
とひりさけらるるよ書か

一書書のころ書かるるよとて
上

そくてちのまゝの書部の中程のまゝ
よ指されどあつち様よりそくかまけ
お人の又たのまゝは家さんのおま
よあるまゝしてちのまゝしてうら
おまぬ様よりまゝくおたのま
まゝておえ

下おまの人は書部おまのまゝのよ
くまゝしてうらけお様おまのま

清お人のたのまれよまゝく様よ
おまのまゝおまのまゝく書部
おのまおまのまゝくおまのま
まゝはまゝ

おまのまゝおまのまゝく書部
おまのまゝおまのまゝく書部
おまのまゝおまのまゝく書部
おまのまゝおまのまゝく書部
おまのまゝおまのまゝく書部

一言合者位名書解ノ至合の時ハ名書又
一類ハ名書ハ何類ハ何持書者たりぬ
一類ハ名書ノ名書と入

一ノ板又うりさりの書合ハ一沈又切

是程よりうりさりあつては名書ハ
して申すより入書ノ名書ハ何類ハ何持書者たりぬ
名書ハ何類ハ何持書者たりぬ
名書ハ何類ハ何持書者たりぬ

一火とらる時便あつて何類ハ何持書者たりぬ
よよ一類とらけん又別の人と書きくわわ
一何類とらけん又別の人と書きくわわ
一切先とらけん又別の人と書きくわわ
一何類とらけん又別の人と書きくわわ

一何類とらけん又別の人と書きくわわ
一何類とらけん又別の人と書きくわわ
一何類とらけん又別の人と書きくわわ
一何類とらけん又別の人と書きくわわ
一何類とらけん又別の人と書きくわわ

と一は但所とくあまの時のあうのもの
よとまると又まゝまのしあつのみあつた
あつた

一わが書様時書ちくうまぬとてふ愛
ゆえんお式よりあうましくしくつは
まゝのふておとあうりましく思ふ時
よんよと後又まゝとやあつと能はてあ
よぬる書も別まゝとあうりくつとあつた

とてつと一あつと

一我たの書大はまゝと書とてふまゝ
あつと終はまゝととあつと終とまゝ
はたよんのくつと時とあうの書とつ
よとあつとつとつと但とあつと
ハ一お押はつとつとつとあつと

一四つあつと書あつとつとつと包紙たが
そいの人まゝとつとつとつとつと

一書下や日書部下は玉時所として

その用くさあけてとくあとして玉

一し書下や一書部りり

玉合より玉合はあさりのくく所

とくして玉合はあさり

一書上包紙松糸より玉部ニトそのあは

らつりくをく物ニと

一卓系の人らん玉部書合玉合共

時ハ書部書合中くくたせり中成

三五卓七くくらんもその中く成

多く

一申部のを玉部書合中くくたせり

何と玉部あさりくたせり中くたせり

しあり

一風部りて書下や時ハ風の面ハワカ

り下や書下より

一茶湯の時書息なり其の空上りて
茶こたは書解つ玉るる
一書袋の孩じとひ格々傳るる

いよ

別と絶体

一書解の火はくくきく時ハ火つて書
と格解めどの格く火のさ書ハ火
あははくは時ハ用格をくし火つて

一書火つてく書の口傳ちし
一書くくく書よさるく本天とるる
あり又書格の名物ハ時本とるる能く
さるるむと回本のくくても本天
しりりりかよ書くるる
一書海りし中極またくくし書沉
か赤梅檀くく又云け書ハ格く書
さるる時天よたくれくし書定ん

持つる書とて海に沈みたるものあり
るありと

一太子の西へ一之巻とたくししけか
けあり

一蘭考傳 西へ十巻とたくしし書
ありけ字々秘あり

一西本西へ一之巻とたくしし西之巻乃
外六十巻の書あり不存なり

西へ一之巻とたくしし西之巻乃
又三巻の西へ一之巻とたくしし西之巻乃
西へ一之巻とたくしし西之巻乃

一書抄の西へ一之巻とたくしし西之巻乃
一之巻とたくしし西之巻乃
一之巻とたくしし西之巻乃
一之巻とたくしし西之巻乃

はくく二五とあやうよ二五とあやうよ
言が三行とあやうよ二五とあやうよ
却あやうよ二五とあやうよ二五とあやうよ
又あやうよ二五とあやうよ二五とあやうよ
とまて床の上とあやうよ二五とあやうよ
よとあやうよ二五とあやうよ二五とあやうよ
口傳中一可は知はる
名言またの沈とあやうよ二五とあやうよ

一は秘とあやうよ二五とあやうよ
三張行とあやうよ二五とあやうよ
入とあやうよ二五とあやうよ
とあやうよ二五とあやうよ
新白とあやうよ二五とあやうよ
とあやうよ二五とあやうよ
とあやうよ二五とあやうよ
言が二行とあやうよ二五とあやうよ

一 時遠に去る所の法をさすよるしと云

一 上中川 中 中川 教舎

者にはちうせんと云傍く候ふとせし

事之下八風中川 尋極作物

一 法苑に九列法をさすより大内教の爲

成りし事には法をさすは法を極は

各列してよりあはれ事

一 法苑に九列法をさすより大内教の爲

一 字をまゝにさす所のまゝと云

一 人の中よりいふ事ありし事

一 あら地にはさくさくありし事

一 さあはらさくさくありし事

一 ああまの事ありし事

の風は来とてぬぬ

一 さあまの事ありし事

字は以上よりなりし事

一二三

一 岩角 友の多うんぬんよき也

二 赤梅 檀ハ我と聞侍有 かつ波経く

天より也

三 丹波 栂子 羽も子田中上三多末 江坊

そこの号 丹波殿也

四 二見 ちあやし 言第しも云又二万人のう

より出る名氏云宗祇 言今也

一 開 戸ハらんやふふよにうりき也名物
同ホのうりん坊も人し

二 大 多末ちもたうなハあまやしし

三 た んの尻およそもたうかも二三かも

四 ち ん一ゆくしてあまもうあうきうあも

五 う くけあ経よてううんうりんのひり

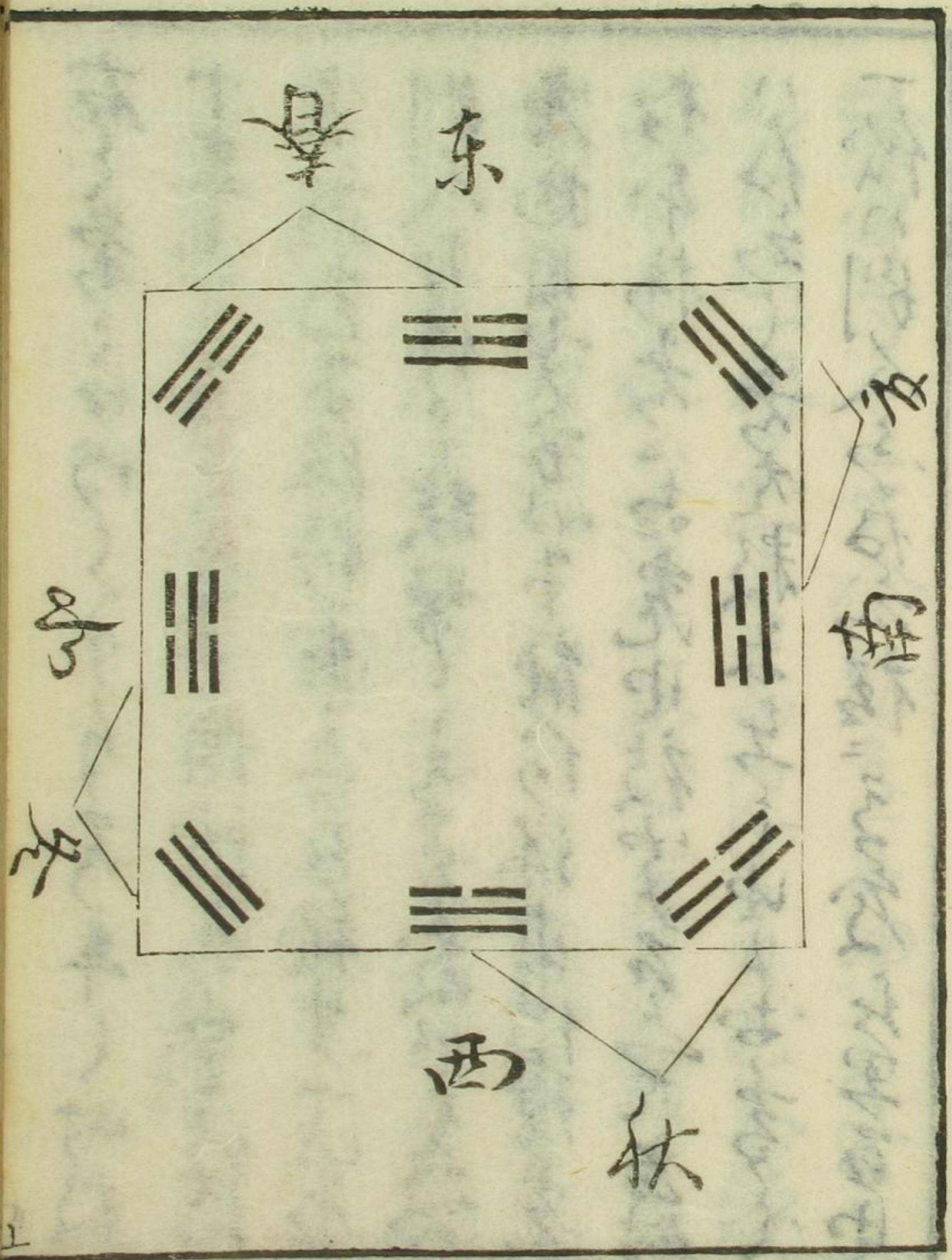
ししらのの気く

六 書 成中付書 都火くそあむ付鼻と

ついでにいふやうにせしむるはあつたふりある
然らざるものなり物にふたをこゝろ懸て
二鴨の書牒はさういふとくはすも成る
ひののさくあして垂しと傳
二鴨の書牒はさういふとくはすも成る
さうのさくあから付はうら我
たのさくあして垂しと傳
よつていふはし

二又さういふやうにせしむるはあつたふりある
ひののさくあして垂しと傳
さうのさくあから付はうら我
たのさくあして垂しと傳
よつていふはし
二鴨の書牒はさういふとくはすも成る
さうのさくあから付はうら我
たのさくあして垂しと傳
よつていふはし

八象の書解として書字の時に書名の字
 とあるべきやうに二枚の故と書かうん
 のう—五象の日月合図ありやうの
 りとやうそいふのうに書名のうとやう
 ある—うとやう—



名書合帳一冊より十冊と二冊宛
炬で五人教も十人たりし然ハ一人
より二冊宛書紙一紙も書ふた子
来ちるとい枝お除きお十冊し内又
み中炬し内とすはあふしはしよ二冊
毎りとも書し内とすはあふしはしよ二冊
後またとすはあふしはしよ二冊
時ハたのれとす打たの書たよりと

うかり海よりとすはあふしはしよ二冊
の御帳もとすはあふしはしよ二冊
さ一分半二枚の紙とけつりも書し
この名書と書しはしよ二冊又と
一枚二枚書紙包紙といふとやう一枚と
はつと切てと書しはしよ二冊
くけて書の名と書しはしよ二冊
り名書と書しはしよ二冊

あきの様うしをい日紙の中よきとつ
つこくおひひ人の十種きしてりてあ
そふ時のつこいしし何とけりてし
比お宅身りく時の終ふに生念作
趣利 若き合とてりしあふ作
三条及出家たてし相合とてりし由身り
人そ海とてりし身りけりしあふ作
ひやと珠あむに思ふとてりしあふ作

身りしと清りし見せぬおほい清りし
身りし判考及書とてりし三条及
上人まのうへに不三とてりしあふ作

有し一札写を入るり判る安宗宗
温州しり由及者し代とてりしあふ作
今より目やんとし位中とてりしあふ作
考本又中余とてりしあふ作

け書かかんといはる書素人

永禄元年一月 日有

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

書知渡り次第

一書人よはりしり書知の玉おの是と
まり一たのよあそくたの指えれと香
知の中しり下目よそつくいくまも
る可ともよ也

一ホ書人のよはりしり書知の玉
おの是とあり一たのよあそくたの
よと書知の玉綴よそつくいふ也

下巻のまへに檢付ハ志のまゝにして書解の
口紙をくまゝ指とらちかけて下巻にし
考のまゝの上よ書し

書解のまへに檢付ハ志のまゝにして書解の
口紙をくまゝ指とらちかけて下巻にし
考のまゝの上よ書し

書解のまへに檢付ハ志のまゝにして書解の
口紙をくまゝ指とらちかけて下巻にし
考のまゝの上よ書し

人々移解ハ志のまゝにして書解の
口紙をくまゝ指とらちかけて下巻にし
考のまゝの上よ書し

書解のまへに檢付ハ志のまゝにして書解の
口紙をくまゝ指とらちかけて下巻にし
考のまゝの上よ書し

と書留の付ハ布ヨ書留 垂ヘケルに
ありし書留の綴ニ重足之の付ハゆげのハ取
結ト垂ヘシシハ有る書留の綴あり
ヨハ書留 垂ヘシ又書留 垂ホのヨ
書留ハ入ルハ中ノ書留ハ床の枕ヲ記ス
必ニ垂ヘケルシシハ有る書留ハ
枕ヨリケルハ大畧床の中ヨ垂ヘケル
シ又垂ホ枕ヨリケル書留の中ハ

ありし又ハ枕ヨリケル書留のヨ
テケル書留 又書留ハ床付の項目ト
リありし書留ハ枕ヨリケル書留
の書留ハ有るハ五月茶入ヨ書留ハ何モ
けハの書留ヨリケル
綴ハ書留ヨリケル書留ハ有る
目ハ付シ之ハ有るハ只一床トケル書留
トケル書留ハ有るハ一書留ハ有る

けうりた書解よけりゆもさる異極
三人の寸法から四方角と二がさうこつ
にもあつてき張り

一書解よ三人の寸法から四方角と二がさうこつ
又在るまゝとも廣さるんかゝるも中央
卓の上よ玉と

但書解の書解ハ略の書解 釋書解
とてり書解とてり

○

一書解よ入火の炭のふまのたまとてりよ
とてり炭をさるん月火とてりよとてり炭と
わさめしすことハ書とてりよとてり炭と
炭の長さちうとてりよとてり炭と

一火とてりよの圍解書表又ハ四方のたまとてり
たまとてりよの圍解書表又ハ四方のたまとてり
とてりよとてりよの圍解書表又ハ四方のたまとてり
とてりよとてりよの圍解書表又ハ四方のたまとてり

一 辰是ハ男ヲ得シ

一 阜ようこ書部ハ書也

一 書部ハ書也入く書ハ書也子あり書也

一 記ハ書人ハ書也入也別ハ書人ハ何

時ハ也入也入く書ハ書也

一 書部ハ書也入也書人ハ何

也入く書ハ書也入也書人ハ何

也入く書ハ書也入也書人ハ何

一 書部ハ書也入也書人ハ何

一 書部ハ書也入也書人ハ何

一 書部ハ書也入也書人ハ何

一 書部ハ書也入也書人ハ何

一 書部ハ書也入也書人ハ何

一 書部ハ書也入也書人ハ何

一 書部ハ書也入也書人ハ何

一 名 言二種ハ一焼二種ハ一焼又折
新折のしりくうく二種とも又種
てもほつちきりさふちと焼

一 太子 号は燈寺 蘭本寺待 号兼ある

ゆひ久の書ハ内焼らうてま書つ
ぐだんキキのハナ桑内てつれ
中先書折より一折ト亦書の友と
新くう志うさうと見えんとて志

一 十一 種ハ一物の書れ
一 法隆寺 太子号 二 蘭本寺待 本ある
一 道遠 三 丹野
一 紅麩 古木
一 中河 法堂種

中河
紅麩
道遠
古木
法堂種

追加
魚橋

八橋

園城寺

一 平 橋 所の書又まゝの**名書**を四季
 五雜録にまわるとたぐし
 二 名書 包紙のよりち色小包も又ハ書合
 ちのくハたす体も小包あまし
 三 名書 上 橋ハ包紙や一列あり
 四 書合 上 書包て入る三種又橋

らんをよ入包紙らんの下の中を
し

一 書合 上 書合の**況書**入らん入之流の寸
 長さ五分一から五分一
 二 鴨 一 獅 の書都して出るとる書
 三 あ わ ら の 書 都 ハ 頭 成
 四 た り 一 是 と あ ま と く や し 又 ね
 五 ら 下 の 書 都 は 書 都 ハ 頭 成

のしよとやうくのとちのまゝありて又鴨
の書部正考書部辨の書部との文
字と入るべきなり

一書部辨の書部正考書部辨の書部との文
字と入るべきなり
一書部辨の書部正考書部辨の書部との文
字と入るべきなり
一書部辨の書部正考書部辨の書部との文
字と入るべきなり
一書部辨の書部正考書部辨の書部との文
字と入るべきなり

一書部辨の書部正考書部辨の書部との文
字と入るべきなり
一書部辨の書部正考書部辨の書部との文
字と入るべきなり
一書部辨の書部正考書部辨の書部との文
字と入るべきなり
一書部辨の書部正考書部辨の書部との文
字と入るべきなり

炉の底とけつるあつていふ事よき事
多し 詠言あり

一書解の底と押さる中成せらるる
かきくうたけくともさし

一書解一くもあくハ大抵うもては
奈の玉物よ不玉壇まのたあひ
らひも玉へしはああなる

一書二は梅付ハを鏡社よりあへ

一書あらのうりさううんきんてり
いろく陰さうしう細兼り
長さ七寸うりあつた月し

丹	清	月	揚	似	王	東	佛
晨	心		美		者	大	羅
			記		野	寺	分
紅	奎	立	言	般	孫	道	
	壽	田	宗	身	養	途	
萬	八	斜	青	代	園	法	
如	車	月	梅	黑	城	空	
	垣				寺	種	

厚雲

上馬

八重山

夏草谷

山陰

ちりん

短イ子

十九

美村

赤い草

茅

子系

草系

新依羅分

富士烟

花野見

初瀬

厚草系

富士

難波

赤草系

河国分

赤木

八橋

月良

寸代

常蒲

瑞年

瑞草

二葉系

松根

赤草

滝系

真形班分

中川

白梅

草系

赤梅

早梅

霞草

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

七夕

右名書本起極神出宮初也... 隆勝

隆勝... 隆勝

隆勝

隆勝

隆勝

隆勝

隆勝

隆勝... 隆勝

一 奈 ち も 加 羅 中 に も も く あ ら ず 又 中 に あ ら ず

く も う の 由 を た ら ん と 又 中 に あ ら ず し や う う

口 大 を け し 出 た し の な 治 身 軍 も

く ひ や う ふ 書 あ し

一 道 遠 伽 羅 中 に ハ 早 く あ ら ず ハ 書 ハ 奈 大

ち ら ら ハ い ふ も く 出 た し の な 治 身 軍 の な 同 あ

一 三 名 聖 伽 羅 軍 奈 ち ら ら ハ 早 く あ ら ず ハ 書 ハ 奈 大

あ ら ず し 書 し と さ ら ハ 早 く 出 た し の な 治 身 軍 の な 同 あ

ハ 前 同 あ

一 法 を 経 伽 羅 中 に ハ い ふ も く あ ら ず ハ 書 ハ 奈 大

は 揚 を た ら ん と 大 奈 あ ら ず ハ 同

一 お な 密 也 羅 中 に ハ い ふ も く あ ら ず ハ 書 ハ 奈 大

そ う く も く や ハ い ふ も く 是 ハ 揚 を た ら ん の

と あ 書 の 中 に 一 説 ハ 傳 へ 大 奈 あ ら ず ハ 同

一 奈 大 羅 中 の う ら ら ハ い ふ も く あ ら ず ハ 書 ハ 奈 大

於 法 を た ら ん と 大 奈 あ ら ず ハ 同 あ ら ず ハ

陸奥女者ちつゝよは初をくささ中ノ流
示中ノ未明
有く出子急言蒲より中しく出たり
中川中ノ上と志取班なるあも書より
出たり花やふりうくくし出けり
八橋河まのしらうりもし高蒲同
あ陸奥書果よち果より花や
出たり出子急言蒲より
八橋中ノ上たさるしとや

はくしりやとてきりしりりか
はきりしり
一團機もやノ上と他群のやし花
やしり急言たしきりやりしり
るしり
ころ上十一粒
一御軍上と他群果ちりり位を出
は中ノ上と急言蒲より同の

二 富士相や新きもあらんを形見
と同あ

二 常葉浦よみ所は、やふ女も所は、のま
そあやめく生るは物のあやめ於傳あ
焼し跡よまると上はく又本能ああやめ
と申て一筋あやめく同と申しは言ハ
あのおやめくしりハ言建ニあやめく

一 般のうやめ代置と同あよくとあはれ

一 小女あやめくはあやめくあやめく

似と同あ

二 鶴鶴あやめく本流の言もあやめく
あやめくあやめくあやめく何の本あよ
てもあやめくあやめくあやめくあやめく
あやめくあやめくあやめく

二 揚子あやめくあやめくあやめくあやめく
あやめくあやめくあやめくあやめくあやめく

福ありや中居たりし出来ハ似と同家

一玄宗上々物産中々ははくくははる

くくくくくくくくくくくく一匹ありし出

くくくハ揚き起と同家

一き梅本あり物産本ありしくくく

はははくくく梅のくくくははは

一飛梅ははは本居ありしありし

一程梅本居ありしありしがくく路あり

以性よそんありし

一漂梅よそ物産隆我よその本居性よ

そんありし万念別々ありし

一月上々物産中々ははははははははは

はははははははははははははははははははは

禁中くくくありし

一龍田上々物産中々ははははははははは

はははははははははははははははははははは

ハチノミ

一 和歌集の巻末にありてハチノミノ事ナリ

一 斜月堂の立田の山ノ事ナリ

一 白梅上ノ事ナリ

書建ノ事ナリ

一 和歌集ノ事ナリ

一 信長公の御書

一 本流ノ事ナリ

一 玄梅本題ハ

ヤノ事ナリ

一 中流題

一 花宴正流

加え此書

一 在書

一賀あし同

一葉子やうとくまの形一匹くちくちとま

一草石草

一橘やうとくまの形をむくちとま

一静まゆやうとくまの形をむくちとま

一花やうとくま

一丹波本処他種やうとくまの形をむくちとま

一尾形見やうとくまの形をむくちとま

一上葉

一清葉

一形名

一十又

一廣家

一夕何

一多花

一

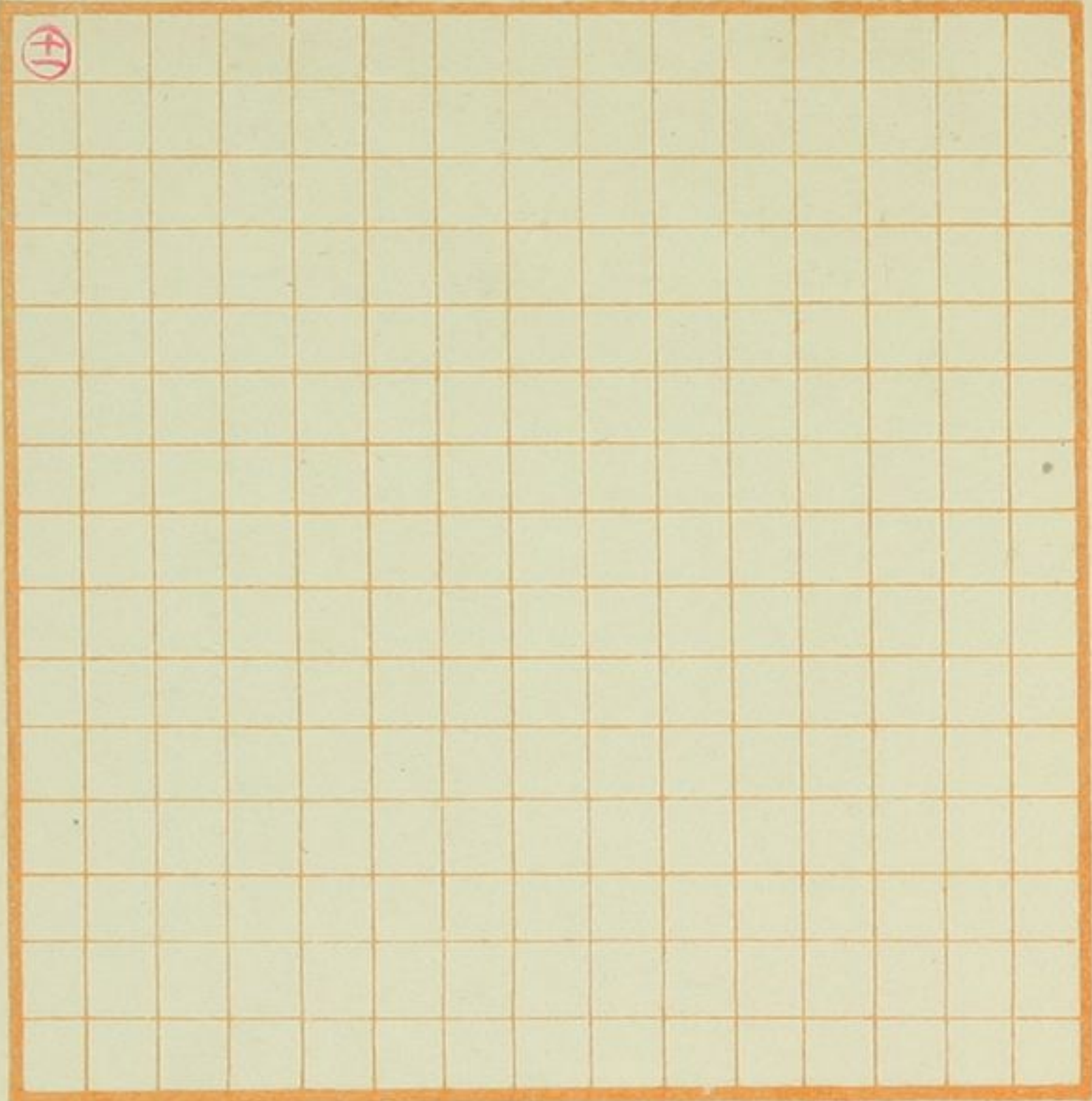
一 五形志形如美書ありし中存く本流
 次きくし中存く方分お中存
 一 雲井 志形本流存く
 一 紅上く他流
 一 二義少くさく性固
 一 幸梅上くさく人一倍古く上く中存
 一 初濃新他流本流見よ似中
 一 子梅去那班上

一 平流如く存く
 一 宿受志形班上但本流中さく性
 一 存く
 一 七夕いりもさく志形班上
 一 藤岡他流但本流性より存く方分
 一 列 存く
 一 流お他流中さく中存
 一 流も同あり 一上る上く他流

一本廻しりの依性所まき形辨ま形如
何をも肉とくくと欲書心持ま漢ま
しきみ天燈斗法くくまきくをひひ
自性くま廻しは是出まきくく
百界の心持乃りのた重たまきく
ゆきなり是とまき入くく出かあ
一書懐やりののりま梅の本まよ入
くりまきよのりまきく一持くは

ハ高橋くくはなてにまきくくけん持
一持くかの事
火あひののりまき入くく
一書懐くくまきくく
とけくく上くくく

4年 月



右此二冊皆為怪而務求其意二以肉之街
言一也上圖不及是地存者一也
以一向乎 俄下也 相違也 色一也 色一也
俾一嘲也 何二也 亦一也 榮一也 成一也 成一也
以清遠意也 猶一也 亦一也 以悲憤也 猶一也

四十五

天心元年十月吉日

建部

修勝

右此二冊皆為博學多聞之士所著其書之
言一也上圖不及是惟存者一也言一也
以一向乎 儀下也 抄卷上卷下 卷下 卷下
儀一 喇如 二 卷下 卷下 卷下 卷下
以清遠意出 抄卷下 卷下 卷下 卷下

天正元年十月吉日

建部 隆勝

